

東洋学園大学では、2025年度より「データサイエンスAI教育プログラム」を実施した。プログラム実施について、自己点検・評価を行った結果は以下のとおりである。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは、「情報処理基礎A」（春学期）と「情報処理基礎B」（秋学期）で構成されており、各1単位、合計2単位です。両科目は、1年次の必修科目であるため、履修率は毎年100%です。卒業までに必ず本プログラムを修了する必要がある（進級要件にもなっている）。1年次に単位修得に至らなかった学生は2年次に必ず再履修するしくみが構築されている（修了するまで再履修は継続していく）。</p> <p>今年度の情報処理基礎A・Bの両方取得単位数率は75%（618名中463名が修得）。前年度（2025年度）は78%（454名中354名が修得）であり、今年度は前年度と比べて3%と低下した。</p>
学修成果	<p>「情報処理基礎」における学修成果は、現代社会で必要とされる情報リテラシーとデータ活用能力を身につけることにあります。本科目は主に1年次に履修する必修科目であり、コンピュータを学習や社会生活の中で適切に活用できる基礎力の養成を目的としています。</p> <p>具体的には、キーボード入力やパソコンの基本操作を習得し、学内ネットワークや情報環境を正しく利用できる能力を身につけます。また、Wordを用いた適切な形式のレポート作成、Excelを用いたデータ入力や表計算、関数やグラフ作成などのデータ処理、PowerPointによる分かりやすいプレゼンテーション資料の作成といった実践的技能を修得します。さらに、データの読み取りや活用に関する基礎的な知識、AIやデータサイエンスの初歩的理解も養います。</p> <p>加えて、情報モラルや情報セキュリティに関する正しい知識を理解し、責任ある行動がとれる態度を育成することも重要な学修成果とされています。これらを通して、学生は大学での学修活動を円滑に進めるためのICT活用能力を身につけるとともに、将来の専門的学びや社会での実務に活かせる基礎的な情報活用能力を修得することができる。</p> <p>2025年度の成績評価は、「授業への参加度（30%）」「演習課題（20%）」「タイピング試験（20%）」「期末試験（30%）」により総合的に行い、学生の理解度を測定してきた。2026年度は、学生の理解度に加えて課題解決に向けた主体的な取り組みも重視する。その為評価方法を「授業への参加度（30%）」「演習課題（20%）」「タイピング課題（20%）」「最終確認課題（30%）」として総合的に評価する予定である。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業終了時に実施した2025年度授業評価アンケートでは、「数理・データサイエンス・AIの授業を理解できた」と回答した学生が約65%、「データサイエンスの基礎知識や利活用を理解した」が約60%、「データ・AI利用時の留意事項を理解した」が約60%であった。一方で、授業のスピードや内容について「難しい」といった意見もあるが、約7割の学生が教員から丁寧で献身的なサポートを受けられたと感じており、教員の対応を好意的に捉えるとともに、質問しやすい環境が整っていると評価している。その結果、授業全体の満足度と理解度はいずれも約60%となった。</p> <p>以上から、学生がおおむね授業内容を理解しており、学修到達目標には概ね到達していると考えられる。今後は、「どちらとも言えない」と回答した学生層に対して授業運営の改善を行い、満足度と理解度のさらなる向上を目指すことが課題である。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	<p>友人や後輩にこの授業をすすめたいと考えている学生は、約60%にのぼる。また、「この授業で得た知識やスキルをほかの勉強や仕事で活かせると思いますか」という質問に対しては、70%が「活かせると思う」と回答している。</p> <p>このことから、多くの学生が本授業の内容を将来に役立つものだと感じており、その実感が友人や後輩への推奨意向につながっていると考えられる。今後も、他学生への推奨度に関する項目を継続的に設定し、データの収集と分析を行うことで、授業の効果や満足度の変化を把握していくことが重要である。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>全学的な履修者数と履修率向上に関して、情報処理基礎Aと情報処理基礎Bは1年次の開講科目として必修科目であり、全学生が履修するため、履修率は常に100%となる。</p>
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>当該プログラムが認定されたのが、令和7(2025)年度であり、まだ卒業生はでていない。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>今回は、大学と受験生の間で、進学に関する情報分析やサポートを提供している会社に本プログラムに対する意見や感想について確認をした。「情報処理基礎」は、生成AI時代に求められる情報活用能力と論理的思考力を育成する内容となっており、初年次からデータベースを活用した情報の裏付けや構造的な理解を学べる点が高く評価されている。授業評価アンケートでは約60%の学生が満足していると回答しており、教員の丁寧な指導や、ITツールを課題解決や自己表現の手段として活用する指導が学習意欲の向上につながっている。また、2024年度のExcel 2019講座では受験者25名全員が合格しており、資格取得支援の成果も明確に示されている。技術力の向上と実践的な活用能力の育成をバランスよく行うことで、「社会で働くための基礎力」を身につけられる授業であると評価されている。今後は、DX推進の観点から、授業で扱うデータ分析の手法や、情報セキュリティ・情報モラルの教育が、具体的な実務事例とどのように結びついているのかにも関心を寄せている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>「情報処理基礎A」及び「情報処理基礎B」の数理・データサイエンス・AI教育プログラムでは、実践的なIT・データ操作技能の習得、演習を通じたデータ活用の楽しさ、段階的な学習設計で達成感を得る、学んだ内容が実生活や他学問分野に繋がる意義の明示といった工夫によって、学生が「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解しやすい授業設計になっている。社会で広く使われるデータやAIの仕組みを日常生活でも活かせる、学修した内容を他の授業や将来のキャリアに結びつけられるという「学ぶことの意義」がある授業も実施している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	<p>学期末には、「学生による授業アンケート」を実施し、シラバスに示した到達目標に対する理解度や達成度、ならびに授業全体の満足度等を把握している。さらに、学生から寄せられた意見やコメントを踏まえ、年度末に内容や実施方法などを科目担当教員でミーティングを実施しており、授業評価アンケートの結果を参考にしながら、授業内容と水準の維持・向上を図り、学生が理解しやすい授業方法を常に検討している。</p>